

のである。しかし快よい臭いが必ずしも無害であるとはかぎらない。臭いに慣れることが、一時的には疲労させない一つの条件ではある。でもそれが生体を蝕ばんでいても気がつかない原因の一つにもなるのである。においは一瞬に感じるものである。それを正確に記憶し表現することは非常にむずかしい。

元素周期表を眺めてみると、天然には九〇種の元素があり人工元素も加えたと一〇二種もの元素がある。これが七周期に分れて並んでいるが生体内に存在するものは皆四周期内にあり、殆んどは水として大部分を占めるのである。これらの元素が常温で分子として存在する場合気体、液体、固体と各々形が違いますが、そのにおいも又異なる。しかしこれらの物質がどんなにおいを持つか即座に答えられる人はいないであろう。あえていえば、七族のハロゲン物質（ふっ素、塩素、臭素、ヨウ素）の特有の刺激臭を思い出すことが出来るぐらいである。では他の元素はにおいを持たないのだろうか。そうではない。例えば最近半導体物質として注目されてきた六族のテルル、セレンは特有の金属臭を持っている。これらの二元素は非常に毒性が強く、蒸気の時はさることながら単結晶（試料全体が一定の結晶軸にそって生長した結晶、表面は鏡面になっている）になっている時でも、セレンは

醬油焼き煎餅に似た重い不快な金属臭を放つ。これはにおいを嗅いだだけでも、あまりの臭さに毒性を感じるがテルルはそうではない。蒸気圧もあまり高くなく、単結晶の時はほとんど臭わない。しかし粉末になって鼻をお

表1 無機化合物の蒸気圧

無機化合物	温度	蒸気圧	無機化合物	温度	蒸気圧
Br ₂	58.2°C	1atm	Hg	126.2°C	1mmHg
Cl	-33.8	"	Zn	487	"
F ₂	-223.0	1mmHg	Se	356	"
I ₂	38.7	"	SeO ₂	157.0	"
Al	128.4	"	Te	520	"
Sb	886	"	S	183.8	"
As	372	"	SO ₂	-10.0	1atm
As ₂ O ₃	212.5	"	SO ₃	44.8	"
Cd	394	"	H ₂ S	-60.4	"
Cr	1616	"	CS ₂	46.5	"
Pb	973	"			